

東京商船大学の小型練習艇史（その1）：二四丸および清見丸

著者	森下 隆
雑誌名	東京商船大学研究報告. 人文科学
巻	47
ページ	33-40
発行年	1997
URL	http://id.nii.ac.jp/1342/00000575/

東京商船大学の小型練習艇史(その1)

二四丸および清見丸

森 下 隆

Hystory of Small Training Vessels Owned by Tokyo University of Mercantile Marine (Part 1)

NIYON-MARU: Ex-Torpedo Boat No.24

and

KIYOMI-MARU: Ex-Navy Tugboat Nominal No.341

Takashi MORISHITA

Abstract

NIYON-MARU was not recorded in the Centennial Hystory of Tokyo University of Mercantile Marine. The author found Navy official document of transferring her to the Nautical School, the predecessor to our university and described in this paper that she was Navy torpedo boat No.24 and was transferred from Navy to the Nautical School as a moored training boat for the Engine cadets in 1911. She died by violence of the Typhoon of October 1, 1917.

KIYOMI-MARU: Ex-Navy tugboat nominal No.341 was recorded in the Centennial Hystory, but her birthday was unknown. The author found Navy official document of ordering her building in 1912 and decided her birthday at March 31, 1913.

1. まえがき

わが国の主要な海運会社、とくに日本郵船株式会社は所属の航洋船から小蒸気船にいたるまでの諸船の所属した経緯から廃船にいたるまでの船歴についての記録をよく残している。これに対して、東京商船大学とその前身校では大型練習船明治丸と大成丸についての記録はよく残されているが、小蒸気船やカッターなどの練習舟艇については船名または艇番号すら記録されていないものが多く、商船学校校友会雑誌、商船学校一覧、商船学校写真帳、東京高等商船学校席上課程修了アルバム、PRパンフレット東京高等商船学校などに掲載された写真にうつる練習舟艇の名称さえも現在では不明のものが多い。

東京商船大学とその前身校の一部の小型練習艇に関する記録は、東京商船大学九十年史の別編第1章練習船史および東京商船大学百年史の別編第4節小型練習船に先達の尽力によって一応はまとめられている。しかしながら商船学校校友会雑誌、商船学校一覧や商船学校写真帳などに船名や写真が掲載されていてその存在が明らかであるにもかかわらず、東京商船大学百年史に掲載されていない小型練習艇、またはそれに記載されていてもその記録が不十分であったり誤っている小型練習艇について、調査の結果新しい知見を得た。

このシリーズで報告する東京商船大学百年史に掲載されていない小型練習艇は二四丸(旧海軍第24号水雷艇商船学校所属(1911~1917年)), ヨール型クルージング木造ヨット揚風丸(商船学校所属1903~1917年頃), 第1世の『つばめ』(1919年発行の商船学校写真帳に掲載), 第2世の『つばめ』(1927~1943年頃), 第3世の『つばめ』(戦後~1960年頃)および小蒸気練習艇の第2世の弥生丸(商船学校所属1917~1923年)である。また東京商船大学百年史に掲載されている第1世の弥生丸(商船学校所属1893~1915年頃), 清見丸(高等商船学校所属1945~1947年)および第1世の『ちどり』(1946~1975年頃)についても新しい知見を得た。

1912年(明治45)および1913年(大正2)当時の商船学校所属の学生練習用艇リストは商船学校一覧の明治45年度

版および大正2年度版の『第14章舟艇及其ノ練習』の付表に明示されている。その付表を表1-1に掲げる。大正3年度版は入手できないので何とも言えないが、大正4年度版以降はこの付表は削除されている。商船学校一覧は明治17年(1884)度版の東京商船学校規則の系譜を引くもので大正11年(1922)度版から東京高等商船学校一覧と改題している。

ここで報告する二四丸は表1-1に示すように旧第24号水雷艇であるが、東京商船大学百年史は本艇について一言も触れていない。筆者は本艇の保管転換に関する海軍省の公文書を見だし、日本船名録、商船学校校友会雑誌などの資料をもとに本艇の船歴を明らかにした。

清見丸は東京商船大学百年史の記載のとおり旧海軍公称番号第341号曳き船であって、海軍から保管転換されたものである。東京商船大学百年史では本艇の製造年月が不明であると記述されているので、筆者は本艇の製造に関する海軍省の公文書と日本船名録の本艇の記載事項を見だして、それらの資料をもとに本艇の製造年月を特定した。

2. 二四丸(旧海軍第24号水雷艇)

2. 1 第24号水雷艇

第24号水雷艇の経歴 本艇は第21号型(ノルマン型)2隻のうちの国産艇である。第21号水雷艇はフランスのノルマン社で建造、呉鎮守府造船支部(小野浜)で組立、明治27年6月27日竣工。第24号水雷艇も小野浜で明治28年(1895)1月25日竣工、一等水雷艇に類別。日清戦争では澎湖島の攻略に参加。明治31年3月21日二等水雷艇に等級変更。明治44年4月1日除籍、商船学校に移管。大正6年(1917)10月1日台風により破壊(福井静夫：写真日本海軍全艦艇史，日本海軍全艦艇史(資料編)：ベストセラーズ，1994)。

表1-1 商船学校一覧舟艇リスト(明治45・大正2年度版)

船名	分隊持																種	積載	長さ	サ	幅	深	サ	帆式		
	八	七	六	五	八	七	六	五	四	三	二	一	四	三	二	一									八	
三 彌 風丸	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	雙座艇	一三	二六	六	七	二	六	ツ	スタン、ツ、
四 生 丸	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	第一級方ツター	二二	二六	六	七	二	六	ツ	スタン、ツ、
丸 小 蒸 氣 艇	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	第一級方ツター	二二	二六	六	七	二	六	ツ	スタン、ツ、
丸 蒸 水 雷 艇	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	第一級方ツター	二二	二六	六	七	二	六	ツ	スタン、ツ、
石 油 發 動 汽 艇	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	第一級方ツター	二二	二六	六	七	二	六	ツ	スタン、ツ、

第一級 學生練習用トシテ備附ノ舟艇及其ノ受持左ノ如シ

第十四章 舟艇及其ノ練習

第24号水雷艇の主要目 長さL118'1"・幅B13'2"・平均吃水d 3'11"・排水量N80T・ノルマン式水管主缶*1・3シリンダー3段膨張レシプロ主機*1・1軸暗車・機関出力1150HP・速力20kt・石炭燃料搭載量24t・乗員18名・備砲4.7cm単装*1・魚雷発射管38cm*3・魚雷*3(福井静夫:写真日本海軍全艦艇史,日本海軍全艦艇史(資料編):ベストセラーズ,1994)。

2.2 第24号水雷艇の保管転換

1896年に商船学校長に海軍軍人として初めて任命された海軍大佐平山藤次郎の1910年5月死亡のあと,6月海軍大佐石橋甫は現役のまま商船学校長に任命され,7月現役海軍少将に陞任ののち,当時としては珍しいペン縦書をつぎの保管転換願いの打診を開始し,つぎの手続きを経て保管転換を完了している。

◇号外 (注.海軍省公文書扱いによる。縦ペン書き)

明治四十三年十一月十五日

石橋商船学校長公印

枋内海軍省軍務局長殿

水雷艇二十一号及二十四号ノ二隻来四十四年度ニ於テ廢艇ト相成ルヘキ旨伝様候処右御実行ノ曉ハ本校機関科学生練習用トシテ一隻申受度候ニ付保管転換ノ義予メ御含置被下度此段及御内議候也 (終)

◇軍第一四五号ノ二 (注.縦墨書)

明治四十四年四月十四日 軍務局長枋内曾次郎

商船学校長石橋 甫殿

廢艇ノ件

過般廢艇一隻貴校ニ保管転換ヲ受ケ度義ニ付キ御内議相成リ候処右ハ目下横須賀海軍港務部保管ノ除籍水雷艇二十四号ヲ貴校用トシテ通信省ニ保管転換スルコト差支ヘナク被認ノ条,右御含ノ上可然御手續相成度右回答ス

この公文軍第一四五号ノ二のつぎに縦墨書の付箋があり,廢艇の当時の需要の動向の一端を知ることができる。

◇廢艇要望者調(部内)

要求先	申出年月日	摘要
横須賀海兵团	明治四十三年十二月二十七日(横鎮参謀長ヨリ)	機関兵教育トシテ水雷艇機械一,コンプレッサー一要望

◇廢艇要望者調(部外)

要求者	申出年月日	摘要
福井県立小浜水産学校	明治四十三年四月六日(県知事ヨリ)	生徒居住船ニ適スルモノ要望
東京商船学校	明治四十三年十一月十五日(石橋校長ヨリ)	機関科学生ノ練習用トシテ水雷艇機械ヲ要望
新潟県立商業商船学校	明治四十四年三月十五日(文部大臣ヨリ)	生徒居住船ニ適スルモノ要望
長崎県立水産講習所	明治四十四年二月二十二日(県知事ヨリ)	生徒居住船ニ適スルモノ要望

◇経第八二一号 (注.縦墨書)

明治四十四年四月二十二日

逋信大臣男爵 後藤新平

海軍大臣男爵 斎藤 実殿

廢艇管理換ノ件

当省所管商船学校学生練習上必要有之廢艇一隻管理換ノ義ニ付キ貴省軍務局長ト内議セシメタ処目下横須賀海軍港務部保管ノ除籍水雷艇第二十四号ノ管理換差支ナク認メラルルノ旨(注. 以下略す)

◇官房第一五六七号ノ二 (注. 縦墨書)

明治四十四年五月八日 大臣

通信大臣

廢艇管理換ノ件

除籍水雷艇二十四号ヲ商船学校用トシテ貴省ニ管理換ノ件経第八二一号紹介ノ趣◇◇右ハ差支無キニ付横須賀海軍港ニ於テ同艇ヲ貴省ヨリ派遣ノ回航員ニ引渡スヘキ旨横須賀鎮守府司令長官ニ訓令致置候

右回答ス

追テ同艇ノ評価額及付属物目録ハ追送可致候 (終)

◇官房一五六七号ノ三 (注. 縦墨書)

明治四十四年五月八日 大臣

横鎮長官宛

除籍水雷艇管理換ノ件

除籍水雷艇二十四号ヲ商船学校用トシテ通信省ニ管理換スルニ付其ノ他ニ於テ同省ヨリ派遣ノ回航員ニ引渡方取計フヘシ

右訓令ス

追テ引渡済ノ上ハ同艇ノ評価額及付属物目録共ニ其旨報告スヘシ

2. 3 二四九(旧第24号水雷艇)台風により擱座

海軍省より保管転換をうけた旧第24号水雷艇の横須賀軍港から越中島の明治丸係船池までの回航について、商船学校校友会雑誌は何も語らない。しかしながら明治38年の日露戦争中のヨール型クルージング木造ヨット揚風丸の航海記『二週間の海上弥次喜多』(商船学校校友会雑誌90, 91, 92, 93, 95号)の記事からしても、第3お台場から係船池までの浅くて複雑な上総滞の遡上は1150HPの主機関をもつ本艇といえども困難を極めたものと推測できる。

二四九が明治丸係船池に係船されて間もない1911年7月26日の払暁、台風による高潮が東京湾を襲い甚大な被害を湾岸各地にもたらした。商船学校の海岸施設も係船池の土砂による埋没をはじめ明治丸、弥生丸、本艇、短艇、艇庫など大被害をこうむった。商船学校校友会雑誌は本艇の被害と復旧をつぎのように報じている。

(1) 明治44年(1911)8月28日発行商船学校校友会雑誌臨時号の同年7月26日の台風被害報告につぎの記事がある。水雷艇(本年五月海軍より保管転換せし除籍水雷艇第24号)は艇首を約北西に向け往來の道格に直角に押し上げらる(写真1-1)。

7月31日に機関部員が水雷艇の推進器の取り外し方用意。

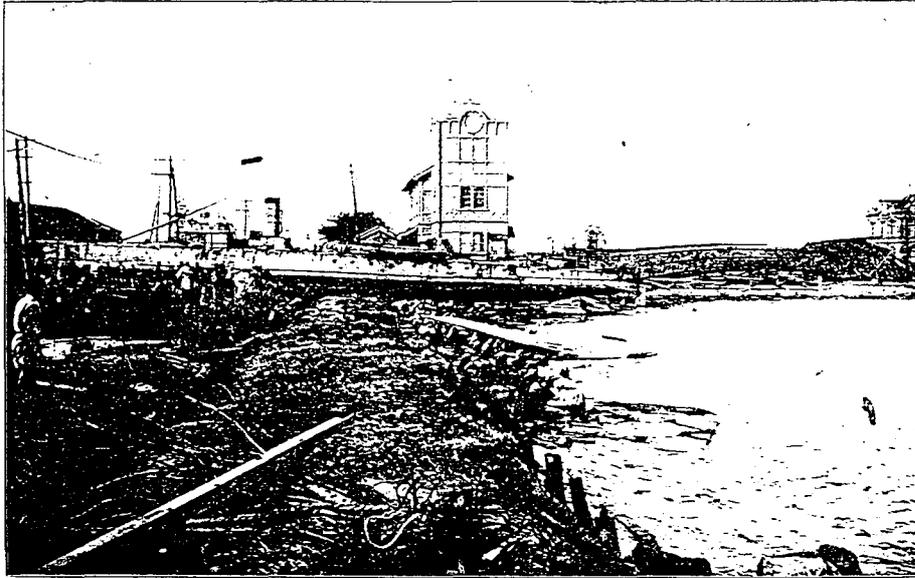
8月1日機関部員一同が推進器の取り外し作業に従事する。午後2時取り外しを終わる。

(2) 練習艇二四九(これは旧24号水雷艇にて候)は目下損傷部分修理中にこれ有り、全部出来上がり、特別検査相済み候はば、学生を乗せて湾内を縦横に突破致すべく、館山位までは4時間にて充分のよし、早い方では母校第一に候はん(商船学校校友会雑誌158号(明治44年12月28日発行))と報じているが、その後本艇の航海記事も見当たらないことや商船学校写真帳の本艇の係留状態から、当初の目的どうり機関科学生の実習用係留船となったと考えられる。

(3) 24号水雷艇は係船場に引き下ろされて、修繕中(商船学校校友会雑誌161号(明治45年3月28日発行))。

(4) 大正4年秋の商船学校写真帳(山田義夫(E59)の席上課程修了アルバム)に本艇の写真がある。

縦書きの注釈: 商船学校の北西岸の陸上に打ち上げられたる水雷艇を其南西方より見たるもの



三其 害被噴海日六十二月七年四十四治明

写真1-1 台風の高潮により打ち上げられた二四丸(旧第24号水雷艇)
(商船学校校友会雑誌臨時号明治44年8月28日発行)

(5)大正6年夏の商船学校写真帳(大正6年7月12日印刷納本, 木下 栄(N71)席上課程終了アルバム)に本艇の写真がある。

(6)1917年(大正6)10月1日高潮をとまなう猛烈な台風来襲。東京の死者, 行方不明者1114名の甚大な被害を受ける。明治丸, 気艇弥生丸, 松風は共にポンド前の校庭に擱座破損。商船学校校友会雑誌222号は被害状況を写真いりて克明に報じるも何故か二四丸については一言も触ていない。

(7)日本船名録の大正2年版(1913)から大正6年版(1917)までつぎの同一記載があり, 大正7年版以降は記載されていないことから大正6年の台風被害によって廃船になったものと断定できる。

番号 14816. 信号符字 MBCV. 船名 二四丸. 船質 鋼. 総トン数 75. 登簿トン数 38. 長さ(尺) 118.8. 幅(尺) 12.9. 深さ(尺) 7.7. 甲板 1. 二重底 -. 製造年月 明治27年10月. 製造地名 摂津小野浜. 気機 3連*1. 気圧 150. 船籍港 東京. 所有者 逋信省。

3. 清見丸(旧海軍公称番号第341号曳船)

3.1 公称番号第341号曳船の保管転換

清見丸の保管転換は東京商船大学百年史の別編第4節小型練習船の項で扱われており, それがつぎのように要約される。

(1)公称番号第341号曳船は, 製造年が不明であるが, 1913年(大正2)4月佐世保海軍工廠より横須賀海軍港務部への引き渡し書類がある。

(2)公称番号第341号曳船は1945年(昭和20)4月高等商船学校に保管転換され, 横須賀軍港から清水市折戸に回航され, 清見丸と命名された。本船関係書類もともに引き渡されて, 東京商船大学百年史の編集に利用されているが, 現在は東京商船大学では見当たらない。図1-1は清見丸の側面図であって, 百年史からの引用である。

(3)清見丸は二四丸同様に主として機関科生徒の教材に当てられていたが, 1946年夏に機関科実習工場まえに座礁させて逐次解体した。筆者の記憶によると1949年夏にはキールが残っていたが, 朝鮮戦争が始まって跡形もなくなった。

昭和22年度版日本船名録のみに清見丸がつぎのように登簿船として記載されていることがわかった。

一、垂線間ノ長サ	六十フート
一、幅	十二フート三インチ
一、深	七フート六インチ
一、平均喫水	五フート
一、排水量	六十噸
一、速力	八ノット
一、実馬力	百

◇官房第二二九一号 (縦墨書)

明治四十五年七月五日

佐世保鎮守府司令長官島村速雄

海軍大臣男爵 齋藤 実殿

曳船製造ノ件

官房一二四一号御訓令ニ依り本年度軍事費ヲ以テ製造スヘキ公称番号第三三九号，第三四〇号，第三四一号曳船三隻ハ竣工期日ヲ来年三月三十一日トシ別紙図面及製造方法書ノ通り製造致度之条御認可相成度

右上申ス

(目録一，製造方法書四，図面二〇添)

目録

一、六十噸曳船製造方法書(船体部)	式
一、同 最大中央(注. 以下不明)	式
一、同 線図	式
一、同 船内側面及諸甲板平面艤装図	式
一、同 機関部製造方法書	式
一、同 主機械高压気筒詳細図	式
一、同 主機械低压気筒詳細図	式
一、同 主機械組立之図	式
一、同 機械汽缶据付位置図	式
一、同 軸系装置之図	式
一、同 汽缶詳細之図	式
一、同 排水量等曲線図	式

(終)

◇佐鎮第十七号ノ三二 (注. 縦墨書)

大正二年五月六日

佐世保鎮守府司令長官島村速雄

海軍大臣男爵 齋藤 実殿

曳船竣工予定延期ノ件

明治四十五年四月一日官房第一二四一号御訓令ニ依り当工廠ニ於テ製造ノ馬公要港部用公称第三四〇号曳船ハ本年三月三十一日竣工ノ予定ヲ以テ目下馬公要港部修理工場ニ依託機関据付工事中ノ処同工場工事ノ都合ニ依リ竣工予定ヲ五月十日ニ延期致度候条御認許相成度

右上申ス

官房第一二九七号

(終)

◇官房第一二九七号ノ二

大正二年五月十六日

海軍大臣

佐鎮第十七号ノ三二公称第三百四十号曳船竣工延期ノ件追認ス(終)

4. まとめ

ここで最初に報告した商船学校の小型練習艇二四丸は東京商船大学百年史に掲載されていなかったが調査の結果、それは旧海軍の艦艇譜に掲載された由緒の正しい第24号水雷艇であって、海軍省より逡信省に保管転換されたもので、その保管転換関係の公文書を幸いにして見いだすこともできた。商船学校所属の1911～1917年の期間、1911年初秋の台風の被害記事をのぞけばさしたる活動を見いだすことができなかつたことからしても、その保管転換申請書にあるとおり係留練習艇として機関科の教材に利用されたものと考えられる。

つぎに報告した商船学校の小蒸気練習艇清見丸は東京商船大学百年史に掲載されている旧海軍公称番号第341号曳き船であって、海軍省より運輸省に保管転換されたものである。東京商船大学百年史には本艇の保管転換の経緯、主要目、図面など掲載されているが、その建造年月が不明との記載があつたので調査したところ、公称番号第339号、第340号および第341号の姉妹船曳き船の一括製造に関する公文書を幸運にも見つけることができた。その結果と、1913年4月19日に本艇を佐世保海軍工廠長より横須賀海軍港務部長へ移管した書類が存在するとの東京商船大学百年史の記述を勘案して、本艇の竣工日を認可上申日の1913年(大正2)3月31日に特定した。なお日本船名録に記載する大正3年3月の製造年月は上述の事実からして誤記載であることは明白である。